広報 肱川

人口と世帯

	昭和40年(11月末)	昭和45年(11月末)	昭和50年(11月末)
人口 男	2,832人	2,321人	2,078人
人口 女	2,939人	2,347人	2,146人
人口 合計	5,771人	4,668人	4,224人
世帯数	1,267世帯	1,179世帯	1,100世帯

転入した人　16人
転出した人　16人

広報メモ

○妊婦健康相談
とき、一月九日　十三時―十五時
ところ、肱川町公民館

○乳児健康相談
とき、一月二十日　十三時―十五時
ところ、肱川町公民館
（町民課）

お誕生おめでとう

嘉城　中岡道幸さん三女佳奈枝ちゃん
協生　石山恒美さん長男悟ちゃん
見の越　城戸英樹さん長女静恵ちゃん
小藪　徳本光春さん長男英紀ちゃん

しあわせを求めて……

福祉の現状と将来

経済の高度成長や、生活の近代化がすすむにつれ、谷間の住民が増えたといわれます。日本人の平均寿命は伸びたが、出生率が低下して、老令人口が増えています。今後、低経済成長と老令化社会がすすむなかで、私たちの「しあわせ」を約束してくれるものは、何でしょう。

私たちの生活がどれほど豊かになったとしても、「傷病」は、本人の意志に関係なくやってくるものだし、「老令」は、いかなる力でも食い止めることはできません。福祉は将来ますます高められなければなりません。福祉の現状と将来の「しあわせ」を考えてみましょう。

増えるおとしより

厚生省発表（昭四十九）によると、日本人の平均寿命はまたのびて、男七一・一六年、女七六・三十一年になったといわれます。ところがこのことと、出生率の低下が原因して、老令人口が急速に増加しています。

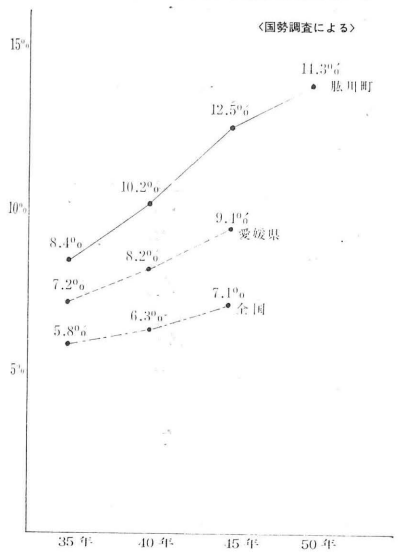
六十五才以上の人口は、昭和三十五年には、総人口に対して五・八％でしたが昭和四十五年には、七・一％に増加し、昭和六十年には一一％となり、今世紀末には、総人口の一五％を六十五才以上の人口が占めると予測されています。これら大量の老令者を、若い労働人口が扶養するわけで、その負担はますます重くなるとみなければなりません。

肱川町においては、工業の高度成長のあおりを受けて、さらに急激な増加を示しています。昭和三十五年の六十五才以上の人口は、五四二人（対総人口比八・四％）でしたが、四十五年には、五七二人（一二・五％）となり、昭和五十年五月末には六〇三人（一四・三％）に増加しました。総人口の減少に反比例して六十五才以上の人口が占める割合は激増しています。（図1）

老令人口の増加にしたがって、老人一人当りの労働人口は減ります。

十五才から六十四才までの労働人口は、昭和三十五年には、老人一人当り六・三人（県八・四人）でしたが、四十五年には、四・八人（県七・一人）に減っています。（図2）

図1　老人の人口に対する割合は増えている



年金は老後のつえ

老人福祉の中心は、国民年金です。

「現在の老人は、過去に働けるだけ働いている。だから年金はそのことに対する賃金で、後になって支払っているにすぎないのだ」という考え方から、昨年やっとスライド制（物価や生活水準に合せて年金額を引き上げる）が採用されました。

今年は、福祉年金では、老令福祉年金が月額一二、〇〇〇円（六〇％増）に引き上げられました。

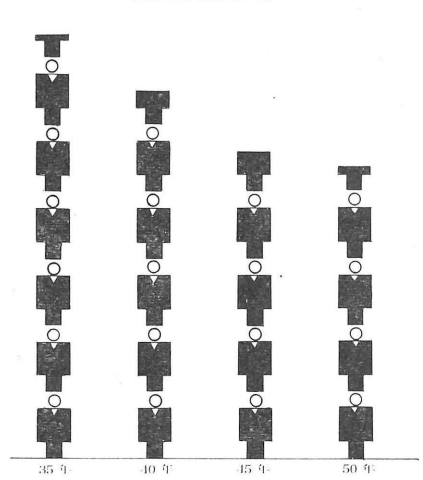
一方拠出年金では、保険料を二十五年間納めた人が六十五才で受けられる老令年金は月額三三、三〇〇円（二二％増）になりました。

スライド制採用による費用の負担が、今後の課題となりそうです。

しかし、老令化社会に対応して、高福祉に伴い高負担となろうとも、年金制度をいっそう充実し、老後をそれにまかせる生活にならなければなりません。年金制度を育てる心がけは、将来、今の若い人たちが老人になった時の幸福を約束する一つの布石だともいえましょう。

図2　老人1人当りの労働人口は減っている

（肱川町、国勢調査から）



大切な老人の自覚

老人に「同情したり」「恵んだり」することが、福祉ではなく、養護とか保護いわゆる受身の態勢で、心とからだの老化を防ぐことはできないでしょう。

いま、肱川町のある老人クラブでは、共同で、緑花木や、しいたけの生産をやろうとしています。

仕事をもつ老人こそ、みずからの手で自分の能力を信じ、人間性を開花させることでしょう。

老親疎外と言われるが

「家つき、カーつき、ババア抜き」と核家族化の進行に伴う老親疎外の風潮がとりざたされてきましたが、総理府の「老親扶養に関する調査」によると、子どもの大半は、親を扶養するのは当然だと考えています。

また同、別居についてもできるかぎり一緒に暮らすのがよいと約半数の子は考えています。

親の生活費の負担については、子から援助を受けている老人のうち、一人の子からの援助が七七％と圧倒的に多く、子は、みんなが収入に応じて負担するのがよいと考えているものが約半数（五二％）で、三七％の子は、特定の子が一人で負担するのがよいと答えています。

「親を扶養する」といっても、食と住を与えるだけでは、本当の扶養とはいえません。

親と子は、たとえ住宅や仕事の事情で別々に居住しても、親子の愛情は永遠に維持されていくことが、きわめて大切なことではないでしょうか。

ねたきり老人は身の回りの世話よりもペルパーと話すことをよろこんでいます。

募金参加で明るいお正月に

肱川町にも福祉に欠ける人びとはたくさんあります。この人たちが、みずからの力で立ち上がり、よりよい生活をおくることを援助し、励ます役割をもつのが社会福祉事業です。

当町においては、社会福祉関係の団体代表者、公職者、奉仕者などで肱川町社会福祉協議会が組織されています。

社会福祉協議会では、会員のみなさんの会費や、共同募金、町や県などの補助などを資金として、**共同募金活動**が行われています。

身体の障害のため施設へ入所している人たちに、明るいお正月を迎えてほしいと年末には、みなんからの心のこもった「歳末たすけあい募金」を贈っています。また、「赤い羽根」をシンボルとする共同募金活動を行っています。みなさんの善意によって寄せられた寄付金は、民間の社会福祉施設に贈られるほか、独居老人の環境整備や敬老行事に充てられています。

このほか、小口資金の貸付やホームヘルパーによるねたきり老人の家庭奉仕などの事業がすすめられています。

共同募金は、わずかな金額であっても、住民一人ひとりの福祉増進のための努力と自覚を示すものとも考えられます。

はげしい社会変動のもとで社会福祉事業の対象がかわり、ニードが多様化するなかで民間の社会福祉事業が大きな役割を果たしています。

私たちの生活を守り、しあわせを高めるために、かならずしも国家だけはゆだねられるものではありません。国と民間の社会福祉事事の充実と協力のほか、これらを支える私たちが、積極的に参加しなければ、将来の「しあわせ」は期待できないでしょう。

集音マイク

○正山老人クラブ。十月二十三日、小学三年に再入学終日子供といっしょに、算数に図画に、給食もお掃除も、楽しい一日でしたと大喜び。

×

○正山小学校といえば、遠距離の徒歩通学生が多い。集団登下校の指導がよく出来ていてよいと、評判。

×

○今年の「くりひろい」の来客は約三、〇〇〇人。雨や同じ日に集中して満杯のためキャンセル、一、〇〇〇人年々評判がよくなり客もふえるが、悪徳くりひろいもふえている。（反省会より）（10・27）

×

○大谷地区白石部落にご存知「湧水」があります。この附近には鍾乳洞が必ずあるはずというので、地元と町で試掘開始。おたのしみに。（11・5）

×

○中央分館主催敬老会開催（11・7日）各地区まちまちのを、九月十五日に統一してはとの意見もある。

×

○農業対策は町の重要な課題、衆知をしぼろうと、議員、農委、町理事者がフリーの立場で懇談会を開く。初回、十一月二十一日。

×

○四月二十日から十一月九日までの救急車出動回数は二十二回。毎晩この特別任務につく職員に深謝。合わせて救急事故防止に注意をのぞみます。

×

○非常に備えて、消防団幹部訓練実施（10・24）だが何よりも、予防が第一、おとしより、子供の火のあつかいにご注意をおねがいしたい。ころばぬ先の杖。

×

○老人クラブも一仕事。高令者林産物栽培パイロット事業すすむ。花木は正山老ク、しいたけ不時栽培は小藪をえらび、町、森組、県が応援して共同作業をすすめる計画。

あいさつをしあおう。親切にしよう。
（「大切に運動」一月の目標）

入選おめでとう

人権に関する作文・書道コンクール

人権に関する作文・書道コンクールに、つぎのみなさんが入選されました。

○作文の部

肱中三年　冨田さゆり
〃　三瀬良治
〃　上甲孝子
〃　山下隆治
二年　西宮ひとみ
〃　川本恵子
〃　高尾守
〃　池田美和子
一年　大野裕子
〃　三井稔
〃　中本勝教
〃　中野小六年
〃　正山小五年
〃　正山小六年
〃　岩谷小六年
〃　小三年
〃　予子林小四年
〃　正山小六年
〃　中野小五年
〃　中野小六年
〃　山本仁美
〃　万山内奈津恵
〃　願寺理枝
〃　西山真由美
〃　椎野和気永本
〃　小田幸
〃　山崎勝哲郁
〃　山崎裕人
〃　万願寺順枝
〃　村田理子
〃　久保田敦
〃　小田増美
〃　勝弘
〃　裕加

○書道の部

福祉施設を慰問

――町議会――

日町議会は去る十一月十四日大洲市にある福祉施設を慰問しました。

郡内施設長浜町立老人ホーム〝白寮〟には肱川町から二人の山園〝園長〟を訪ね高橋所長から身の入園者があり、池田園長から労話を伺い、親身の世話をいて組合立の看護婦さんを励の大洲特養護老人ホーム〝とみす〟から運営や生活の苦様子を伺いました。ここにいて帰りました。ここには町から二人が入所されています。

お知らせ

心配ごと相談

十二月二十五日　谷本、兵頭、都谷相談員
一月五日　宮本、下石相談員
一月十五日　長田、坂本相談員
一月二十五日　楠野、山中相談員
ところ　肱川町公民館
受付　九時～十六時
（肱川町社会福祉協議会）

人権法律相談

とき　一月十六日　十時～十五時
ところ　肱川町公民館

部落自慢ばなし

上嵯峨谷　竹森公平

私の部落には、自慢するほどのものは何一つありません。それでも、部落全体が良くまとまることです。

上は河辺村植松迄約六キ。便利の悪い事にとっては、肱川町の中でも何番とは下らないと思います。

道路の悪いことも、おそらく肱川町一番かもわかりません。戸数十五戸人口四〇人余り。一戸当たりの道路延長は、約三〇〇㍍、これだけの道路を控えている我々の部落では、かなりの問題があります。

地元はもとより国県町の援助なしには、部落の発展はあり得ません。特に、町の施策の一つである日の照らない場所に対する特別対策により、大分良くなってまいりました。

別に自慢することはありませんが、作れば何でもできるということです。たばこあり、栗あり森林あり。特別のものといえば、我が部落には、お宮あり、お寺あり、人が心のよりどころとして尊敬する建物、社（ヤシロ）が上嵯峨谷にあることです。これが自慢の一つとなるでしょう。

これからも、暖かい心の人をつくるため頑張ります。

最近、岩谷、松の久保を経て植松に至る道路が開通し、便利になりました。

お宮あり、お寺あり

知らなかったではすまされない

ヘヤスプレーと石油ストーブの危険な関係

あなたの身辺には、二重に火災危険がひそんでいます。これでもちょっとした知識があれば、未然にとりのぞくことができます。

「ちっとも知らなかった」ではすみません。

・ヘヤスプレーや殺虫剤などの容器には液化ガスが充てんされており、引火しやすい容剤がキリ状になって噴出するので火の近くで使用するときわめて危険です。

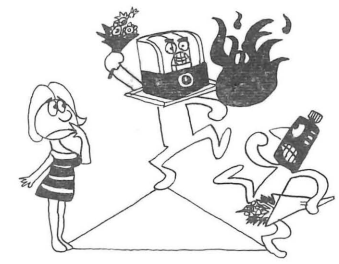
役場紹介

国土調査課の巻

肱川町の国土調査は昭和四十一年度から始まりました。国土調査課は皆さんの大切な財産である山林・田畑・宅地など全ての土地を一筆毎に測量調査して明確にするのが仕事です。

国調課（国土調査課の略）には調査係、登記係の二つの係があり、調査係は町内の全ての土地の測量を行い新しく地籍図を作りあげて行きます。登記係は調査係が測量調査をしたその成果をとりまとめ、地籍簿を作成、法務局（登記所）に登記する仕事を行っています。

当初の四十一年度に中居谷地区から開始したこの調査もその後、順次名荷谷、予子林、大谷、宇和川、山鳥坂（一部）と現地調査を完了、本年度は岩谷地区（敷水、菟野尾側）を実施中です。

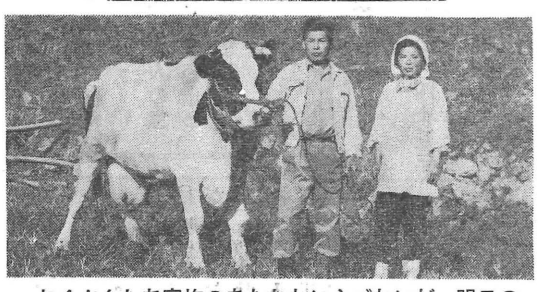


議員さん出番です

――肱川の農林業の姿は――

――家族的複合経営――

西田盛夫さん



おくさんたち家族のあたたかい心づかいが，明日の西田議員の活躍を約束する（西田牛舎で）

今月は西田盛夫議員の出番です。かつては肱川町指定の酪農モデル農家三人の内の一人です。現在乳牛十一頭の堅実な酪農専業農家として期待どおりの成果があがっています。酪農をとおしての農業精通議員の一人ですあり、人生勉強のつもりで出馬しました。議員になってその責任の重大さをかみしめている。ことにインフレ不況下であえいでいる農林業をほっておくことはできないといった真剣にくみたいとりくみたい。

―議員への動機は―

―どうすればよいか―

―何をなすべきか―

―農民が安心して農業だけで生活できる基盤をつくること。農地さえあれば農業をつづけたいという人がずいぶんいる。平均一〇位の農地を確保するための農地の開発も積極的にやるべきだ。

―農林団体の対応は―

組合員との結びつきを重視すべきである。その庭先へ気軽に出かけ、よき相談相手、技術指導が必要だ。

―農林業の姿について一言―

肱川型家族的複合経営と比較的価格の安い濃密農業にすべきである。

―話かわって、最近の風潮について―

社会や人のために奉仕する心がうすれて自分さえよければよいという風潮は何さいけなければならない。

◎現在お母さんの二人の子供さんの五人ぐらいの家族のみなさん、明るくて活気のある家庭での奥さんの意志であるくらいの規模で土地小さい土地改良事業が必要だ。それには土地の条件に提唱され町長が規模の農民の意識の高揚が要件になってはじめて農業の活性化が期待できる。

インタビュー

明治・大正・昭和に生きて……

農業のかたわら公職二十余年

下敷水　椎野筆清さん

持ち合いたい部落を大切にするという心を…と椎野さん

肱川村総務課長となった。

慎重で穏やかな口調、話し方に信頼と安心感をもたせる人柄である。

大正十一年、当時の河辺村書記を契期として、昭和九年から十八年まで助役を勤められたが、

兵事事務に明けくれ、〝急拠〟馬四十頭を集めよ〟の命令などはまだ生々しい思い出に顔がかげらかった。

昭和二十一年公職追放に伝えることはまことに悲しい思いであった。

二十五年間の役場生活は報いられることなく終るまで、肱川村にとって椎野さんの大切な識見であり、

昭和二十七年、教育委員会制度の発足とともに教育委員に選任、以後、民生委員、農業委員、また国家委嘱の各種委員および団体役職と二十余年間にわたって農業のかたわら公職が続くこととなった。

現代社会の変化について「わしの勉強が足らんせいかどうも理解できんものが多い。」と不安な目となる。

教育問題では「今の子供たちは、いろいろのことを習っているが、大事なことを知らないように思う。」

このことは社会人全体にいえる反省すべき事柄であろう。

地域問題に関して「昔は部落に神仏にかこつけて行事、おこもりなどが年に五～六回はあって、

つながりの場も多かった。皆んなが生活の基本である部落を大切にしようとする考えを持ち合いたい。」と指摘。

話題を酒に切り替えると「はじめはさんざん親父も嫌かったが、少なくたが素質？があって、〝量〟を完成し、わたしの代で大らかな笑いに成ったら。」

「人は緊張の連続で耐えられない世の中をうまく運ぶ四角四面とも言えん。」

酒の功罪は区区であるが、そういえば昔もむずかしい話に酒をくみかわしてしいてことをまとめた話がある。

〝酒の歴史〟に出てくる。

「ただ人間らしい信念は、ばと思っていい一生が終れば役割りは寄せの役割りとしてしかるべきよりリンゴの死すとの木を植えること、外孫気持ちは十二人いて来い来いと言ってくれる。そして山の中で百姓をやりながら暮せること。」との答えであった。明治三十三年生れ七十五才

こんにちは赤ちゃん

私たちふたごちゃんなの

大和山内由貴ちゃん（右）と理恵ちゃん（3か月）

大和、山内吉晴さんの二女と三女。

冗談で「双児が出来たらいいな」と話したことがあるとのこと、その思いが通じたのか八月に二人の赤ちゃんが家族全員に祝福されて誕生されました。

妊娠中双生児とわかった時は大変だとは思ったけれど嬉しかったとお母さんの話。

由貴ちゃん、出生時体重二、二五〇㌘。

理恵ちゃん、三、〇五〇㌘。由貴ちゃんの方は保育器に五日間入りましたが、どちらも大変健康で七日めに退院しました。

由貴ちゃんは生後二十一日めに三、〇〇〇㌘（一日平均四〇㌘増）妹の理恵ちゃんは生後二十一日で三、四五〇㌘（一日平均一九㌘増）

二カ月、三カ月になりますと、二人の体重の差は、五〇～一〇〇㌘となりました。

目も良く見え耳もよく聞えます。天井につるしたおもちゃのオルゴールの音色と、くるくるまわるのを見ては手足をばたばたさせ、アアーと何か語りかけます。三時頃になると幼稚園に行ってるお姉ちゃん（明美ちゃん）が帰り真先に二人の側にきて、お歌をうたったりご本を読んで聞かせてくれます。

お母さんは明美姉ちゃんが一寸小さいので大きく元気な子供になってほしいということですがきっと家族の皆様の愛情により情緒豊かなお歌のすきな女の子に成長されるでしょう。

一口医学

妊娠と腎臓の病気

ジン臓の病気がなおりきらないうちに妊娠すると、月数のすすむにつれて悪化し、母子双方に障害をおこすことがあります。

ジン臓病の人の妊娠はあまりおすすめできませんが、軽症の場合は医師に相談し、許可があれば医師の管理下に妊娠、出産ということも可能です。

ジン臓病にかかったことがあって妊娠した場合は、もうなおっているはずだと思っても、妊娠早期から受診し、ジン機能に関して尿や血液の検査を受け、支障のないことを確認しておきましょう。また、初めのうちは異常がなくても潜在していたジン障害が妊娠後半になってから現れることもあるので、医師の指示に従って、注意をよく守ることです。

電線の近くでのタコあげは危険です。注意しましょう

暖房器具は正しく使いましょう。